これまでの委員会等での意見と対応

第2回

足羽川ダム建設事業 環境影響評価技術検討委員会

～これまでの委員会等での意見と対応～

平成19年8月9日

国土交通省
近畿地方整備局 足羽川ダム工事事務所

委員会・鳥類部会・検討会の開催状況

委員会・鳥類部会・検討会	開催日	内容
第1回 委員会	平成19年4月19日(木)	事業概要 周辺地域の概況等
第1回 鳥類部会	平成19年5月17日(木)	鳥類・生態系上位性 (調査の手法)
第1回 検討会	平成19年5月22日(火)	動植物・生態系 (調査の手法)
第2回 鳥類部会	平成19年6月14日(木)	鳥類・生態系上位性 (予測評価の手法)
第2回 検討会	平成19年6月14日(木)	動植物・生態系 (予測評価の手法)
第3回 検討会	平成19年7月13日(金)	水質・地下水 下流物理環境

第1回 委員会(全般)

主な意見	事務局対応
原石採取の工事は、立木の伐採が伴い、猛禽類などに大きな影響があると思われる。	原石の採取の工事についても影響要因として選定し、影響予測を実施する。
一般に治水専用ダムは穴あきダム等と言われているが、穴あきダムは自然調整方式のダムのことである。本委員会では流水型など定義をしっかりとっておいた方がよい。	「穴あきダム」は使用せず、流水型に統一する。
水温、富栄養化、溶存酸素量を評価項目から削除している根拠を整理する必要がある。	試験湛水時において水温、富栄養化、溶存酸素量を評価項目とした。

第1回 鳥類部会(鳥類・生態系上位性)(1/2)

主な意見	事務局対応
<p>現地調査の確認種で、当該地域における分布に疑問がある種については同定根拠を整理すること。 同定根拠が充分でなければリストから削除した方がよい。</p>	<p>現地調査での確認状況を整理し、同定根拠が充分でないものについては、委員の助言のもとリストから除外した。</p>
<p>調査地域は改変区域から3kmとのことであるが、ダム堤体付近ではやや狭いと思う。 ダム堤体付近の調査地域は、地形等をふまえ、もう少し広くした方がよいと思う。</p>	<p>調査範囲は、地形等を考慮し修正した。</p>
<p>近年、カワウのコロニーが、ダム周辺等、福井県内の山間部で確認されている。このようなカワウ本来の生息域でない上流域では、ヤマセミの主要な餌となるイワナやヤマメといった渓流性の魚類を捕食している。このため、カワウは、ヤマセミの生息状況を考えるうえでも重要となることから、ヤマセミ調査時には、カワウの生息状況を記録すること。</p>	<p>今後はヤマセミ調査時に確認されたカワウについて、確認位置、個体数、行動等を記録するものとした。</p>

第1回 鳥類部会(鳥類・生態系上位性)(2 / 2)

主な意見	事務局対応
ダム堤体付近に分布するクマタカつがいについては、巣から事業区域までの距離や巣から事業区域までの見通しの有無など、事業との関係についても整理すること。	今後影響予測を行う中で、クマタカ各つがいの内部構造、営巣環境、狩場環境と事業との関係を整理する。
当該地域にもともと生息していた種ではなく、飼育個体が野生化したと考えられる種については、重要な種として取り扱うべきではない。	飼育個体が野生化したと考えられる種については、重要な種のリストには掲載するが、予測の対象からは除外する。
クマタカの行動圏の内部構造の推定結果については近年の出現状況と矛盾していないか確認すること。	クマタカの行動圏の内部構造の推定結果については、推定された内部構造と近年の出現状況を重ね合わせ、近年の出現状況をふまえて推定結果に矛盾がないかを検討する。
調査手法の整理により、調査の不足が明らかになったらどのように対応するのか。	方法書に記載し、今後調査を実施する。

第1回 検討会(動植物・生態系) (1/2)

主な意見	事務局対応
<p>文献に記載されている種は基本的にそのままリストに整理する。文献調査の確認種で、当該地域における分布に疑問のもたれる種がある。</p>	<p>文献記載種は原則的にそのままリストに整理する。ただし、絶滅種、移入種等については、その旨を注釈に記載する。なお、文献のみの確認で、当該地域での生息・生育の可能性が低い種については予測対象外とする。</p>
<p>付着藻類では、重要な種について広く知ってもらうことが保全につながるため、資料を公開して欲しい。</p>	<p>精査を行い、リストが確定した後、最終的には公表する予定である。ただし、位置情報については密猟や盗掘の対象となる種もあることから、公表の仕方については、今後の委員会の中で協議する。</p>
<p>現地で確認されていない文献のみの確認種で、調査地域内にも広く分布していると考えられる種がある。文献および現地で確認されていないが、調査地域に生息する可能性のある種がある。</p>	<p>調査の充足度を検討し、必要なものについては補足調査を行うものとした。</p>
<p>現地調査の確認種で、当該地域における分布に疑問のもたれる種がある。</p>	<p>分布疑問種については確認状況や同定根拠を整理した。</p>

第1回 検討会(動植物・生態系) (2 / 2)

主な意見	事務局対応
<p>科の一種など、種を確定できていないものはリストに載せなくてもよいのではないか。 種としてカウントはしないが、リストに載せておくという考え方もある。</p>	<p>リストの作成時には、種まで判別できなかったものについても整理した。なお、影響予測にあたっては基本的に種まで判別できているものを対象とするが、分類群ごとに詳細は検討する。</p>
<p>重要種だけでは保全の対象から漏れる種が出てくる。夜行性種や樹上性種を対象とした生態系の検討も必要ではないか。</p>	<p>典型性の中で検討を行う。現在確認されている種から食物連鎖を想定し、適宜予測・評価を行うこととする。</p>
<p>足羽川の、水温が低く溪流的な環境を特殊性として扱えないか。 特殊性として、既に改変された地域は選定できないか。</p>	<p>特殊性は、現在のアセスの制度では、湿原や湧水などの環境を扱うこととしている。 足羽川の、水温が低く溪流的という生息環境の特徴については、調査地域に広く分布しているため典型性として検討を行う。</p>
<p>移入種は保全の対象にしなくてもよいのではないか。</p>	<p>移入種は基本的に予測評価の対象としない。</p>

第2回鳥類部会(鳥類・生態系上位性)

主な意見	事務局対応
クマタカの生息適地の解析にあたっては、使用するデータの精度に留意する必要がある。また、解析の根拠となるバックデータを見せてほしい。	詳細データを提示する。
ヤマセミの影響評価にあたっては、営巣地を押さえておくことが重要である。	調査地域全域において営巣地踏査を実施している。
調査地域が広いため全域の調査は不可能、調査対象区域を絞った調査が必要だと思う。	調査地域で確認されたつがいの分布状況を踏まえて、効率的な調査を実施している。
ヤマセミの餌となる魚類の生息状況との関連についても検討する必要がある。	今後、影響予測を行う中で整理していく。
ヤマセミの巣への侵入ルートについても整理しておくこと。	今後、影響予測を行う中で整理していく。
現地調査および影響検討の結果が実態と合っているかの確認が必要である。	できる限り定量的な調査・予測手法をとり、結果の検証を行っている。

第2回検討会(動植物・生態系)

主な意見	事務局対応
文献調査に使用する文献については、分野ごとに精度が違うため、各担当分野の委員の助言に従い使用の可否を決めたほうがよい。	委員の指摘に従い使用する文献を決定した。
陸域典型性の類型区分は、人が管理している環境と管理していない環境に分けて整理してはどうか。	陸域典型性の類型区分は「落葉広葉樹林」「スギ・ヒノキ植林」「耕作地(水田)」の3区分を想定している。今後生態系の現地調査による検証結果と合わせて再度ご説明する。
下流河川の水質の変化については哺乳類も予測評価の検討の対象とすること。	ご指摘の通りとする。

第3回検討会(水環境・河川物理環境)

主な意見	事務局対応
濁りは生物への影響も考えられる。環境基準だけではなくこれらに配慮しデータの精査を行う必要がある。	間接影響として生物への影響も評価する。
平成16年の福井豪雨による濁水の状況(どの程度濁水が続いたか、濁度の低下パターン)を把握することにより足羽川ダムにおける濁水状況の参考にすることが考えられる。	濁度の連続観測データを整理する。
貯水池を介したSS成分の変化は重要である。予測の場合、貯水池の堆砂状況により現象が異なるので注意すること。また、大規模出水は上流からの負荷が大きい、小規模出水では上流からの負荷に対する巻き上がりの負荷が無視できない。流量設定にも注意すること。	種々な流況パターンで検討を行う。
出水時のダムへの貯留は長くても2日程度である。富栄養化項目については、ダム建設による影響を検討するという観点に立った場合には検討対象とする必要はないものとする。	ご指摘の通りとする。